

2026年度基調報告

認定特定非営利活動法人ファミリーハウスは 1991 年創立以来 35 年が経過しました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

ファミリーハウスは 2025 年度、8 施設 16 室を運営し、273 家族、延べ 4,895 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2025 年度の活動についてご報告申し上げます。

第一に、ハウス運営事業についてです。今年も感染対策について慎重なハウス運営を行ってまいりました。スタッフ、ボランティアの皆さんの意識の高さと工夫により滞りなくハウスを運営することができました。

これまでも重症度の高い患者さんのために、在宅看護、訪問学級の受け入れをしてきましたが、2025 年度は在宅診療の受け入れも行いました。一般状態の悪い患者さんにとっては地域医療と連携することでこれまでハードルの高かった終末期のお子さんと家族を安心安全に受け入れることができました。理想の家実現に向かい一歩前進することができました。

第二に、第 26 回 JHHH ネットワーク会議は、福岡のパピヨン 24 ガスホールにて福岡ファミリーハウスと共催で行われ、会場・オンライン合わせて延べ 84 名が参加。1 日目はシンポジウム、2 日目に分科会を開催いたしました。シンポジウムでは、福岡での 30 年の活動を振り返り、ハウスがとり壊される 3 年後、新しいハウスの開設の必要性を訴えました。分科会ではそれぞれの団体の現状と問題点を話し合いました。

その他 東京マラソン、チャリティーコンサートなどのイベントも滞りなく行うことができました。

その際に特筆すべきことは ボランティアの皆様 のいつもと変わらないお力添えがあったことです。特に近年、企業ボランティアの皆様のご支援が大きく 私たちの力となっております。

企業に出向きボランティア活動のプログラムを実施することはもちろんですが、感染予防を念頭に、少人数 多数回でハウスの活動に参加いただき日常のハウスの運営を支えていただいております。

東京マラソンなどのブースでの英語の対応や応援にも参加いただき、活動の輪が広がっています。

また高校生のファミリーハウスの活動に対するインタビューや中央区と協働した夏休みのボランティア体験、大学生 大学院生などの実習受け入れ先としても依頼をいただき、ハウスの機能が幅広くなっています。

数多くの皆様にご支援いただき様々な活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。

今年度も皆様のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

2025 年度事業報告

1. ハウス運営事業

(1)ハウス運営事業

2025 年度は、8 施設 16 部屋で運営を行った。利用実績は、273 家族、4,895 人、延べ 3,078 日。

前年度（346 家族、5,807 人、延べ 3,855 日）に引続き、感染予防を徹底しつつ利用家族の受け入れを行い、利用家族数・利用人数・日数とも増加。今年度もボランティア・スタッフの安全確保と利用者の協力を得て感染防止策を重ね、ハウス運営を維持することができた。

本法人活動開始以来の利用実績累計は、20,634 家族、延べ 190,670 日

(2) 安全衛生について

①寝具リネンのクリーニング

各ハウスの寝具リネン（布団カバー・シーツ・枕カバー）を原則月 1 ～2 回、業者とリネンボランティアの協力を得て交換。常時、清潔なリネンを提供することができた。

②リース寝具の提供

本年度も引き続き、良質なリース寝具を提供することが出来た。寝具一式（枕、敷布団、ベッドパット、厚・薄掛布団）は年 2 回洗浄されたものと定期的に交換した。また、感染症専門看護師のアドバイスで、利用者がチェックアウト後にはベッドパッドを洗濯し、次の新しい利用者を受け入れるようにした。交換時には定期・企業ボランティアの協力を得て梱包や点検を行い、利用者への良好な衛生環境を維持することができた。

③洗濯機槽とエアコンフィルター清掃

毎月 1 回、各ハウス洗濯機槽、エアコンフィルターを清掃し、治療中の患児も安心して利用できる衛生的な環境維持に努めた。ハウスボランティアの地道な活動に支えられて、衛生を保つことができた。

④ハウスの大掃除

日常の清掃は、利用者と定期のハウスボランティア・スタッフで行い、衛生維持に努めている。定期ボランティアは長く継続して活動しているボランティアに支えられている。今後は新規のボランティアを増やしていくことが課題である。企業ボランティアについては、引き続き感染対策の点から 1 回の活動での参加人数は少人数を維持しつつ、活動回数を増やしハウスの安全衛生の維持に努めた。2025 年度は、延べ 48 回の大掃除を行い、合計 460 名にご協力いただいた。

企業ボランティアがハウスの活動に参加する際には、引き続き参加者の社員に感染症に関する質問用紙を提出いただき、これまでは活動前にハウスで一緒に見ていた活動紹介の動画は各自事前に視聴していただいた。活動中は常時換気、マスクの着用、手洗いの徹底、互いの距離を取るなど、感染対策を取って活動を実施した。

○カピバラの家（5/10,7/12,9/13,1/10,3/14）

○ひつじさんのおうち（4/22,5/20,6/3,6/5(2 回),6/6,6/13,6/15(2 回),6/16,6/17,9/9,9/23,10/7,10/21,11/4,12/2,3/10,3/24）

○ひまわりのおうち（6/9,10/16）

○うさぎさんのおうち、かちどき橋のおうち、おさかなのおうち

(4/30,5/28,6/25,7/23,7/30,8/13,9/10,10/1,10/8,10/9,10/22,10/29,11/5,11/12,11/26,12/3,2/4,2/25,3/4,3/11,3/25)

⑤専門業者によるハウスクリーニング

今年度は専門業者によるハウスクリーニングを7施設で実施した。エアコン、レンジフード、浴室など専門技術の必要な箇所など日常の清掃では出来ない箇所を中心に清掃を行った。大勢のボランティアが集まったの大掃除は感染予防の観点から自粛せざるを得ない状況が続いていたため、専門的な清掃による衛生的な環境維持は利用者の大きな安心に繋がった。

(3) ハウス設備の充実

ファミリーハウスは、安いホテルではなく、利用者にとっての「病院近くのもうひとつのわが家」を運営することをミッションとしている。特に近年は、重篤な子どもたちの利用も多く、ハウスが家族とのかけがえのない時間を過ごす場所となっている。そのため、ハウスの安全や衛生をはじめ、各ご家族の状況とそれぞれのニーズに添った支援を募り、設備充実に努めた。

① 本・おもちゃなど

個人や企業・団体から、絵本・おもちゃなど多くの寄贈があった。企業から子どもたちに人気のキャラクターグッズやベッドの上でも楽しむことができる安全なおもちゃなどをご寄付いただき、患児をはじめ、きょうだい児、ご家族に大変喜ばれた。届いた本やおもちゃは、ボランティアで適宜除菌を行い清潔な状態で利用していただいた。また誕生日やクリスマスなどのイベントの際にラッピングしプレゼントとしてお渡しした。

②食品・生活用品など

企業や会報の呼びかけに応えた個人の方から、食品や日用品の寄付が多数あった。物価高騰によりこれまで以上に生活費を抑えようとする利用者が多い中で、食品、生活用品のご寄付は経済的な負担の軽減に留まらず、安全で安心なハウスでの生活に繋がった。それらの物品寄付は、ボランティアの協力を得て各ハウスに配備した。

③利用者への季節の贈り物

企業、個人のボランティアの協力を得て、ファミリーデー（こどもの日、母の日、父の日）やクリスマスなどに季節の品を贈ることができた。また、クリスマス時期は、子どもたちが大好きな本やおもちゃ、ひざかけや靴下、クリスマスのお菓子などが個人・企業・団体から多く届き、ボランティアの協力を得てラッピングを行った。患児の年齢や性別、好みによりプレゼントを仕分け、好きなものを自由に選べるよう準備した。

④電化製品など

個人や企業より、家電製品等の備品の寄付があり、老朽化した家電のリブレースやLED化ができ、ハウスの環境をよりよくすることができた。

⑤防災用品

災害時に必要な防災用品や非常用食品を滞在想定人数にあわせてハウスに常備している。備蓄食や水は「ローリングストック」という普段消費する食品も備蓄食としてカウントする方式で管理。この方式は鮮度を保ちながら日常に近い食生活を送ることができ、定期的に在庫を確認することで消費期限切れを防ぐことができた。

⑥部屋の模様替え

2025年6月に、IKEA Family 募金の支援で、ひつじさんのおうちの模様替えを行った。模様替えにより、利用者

の気持ちが上がる部屋になったと共に、これまで限られたスペースでの収納に苦心してきたが、限られたスペースでも必要な物品を使いやすく収納が整った。

(4) ボランティア関係報告

①ボランティア説明会

今年度のボランティア説明会は全てオンラインで実施し、延べ 34 回のボランティア説明会を開催した。1 年間の新規ボランティア登録者数は 33 名。ボランティア説明会では、まずファミリーハウスの活動を理解いただくこと、ボランティア希望者と運営側のニーズがマッチングすることの二点に重点を置いている。2026 年 3 月現在、登録ボランティアは 265 名となった。

②ハウスを支えるボランティア

ハウスで活動できる定期のボランティア、企業のワンデイボランティア共にコロナ前より減少しているが、運営する全てのハウスにおいて、ボランティアチームが定期的に活動することが出来た。ハウスキーピング（156 回、延べ 744 名）、リネン交換（82 回、延べ 82 名）、巡回活動（26 回、26 名）を定期的に実施した。

【ルーティン】※ハウスキーピング、リネン交換、巡回活動の合計

ハウス名	延べ活動回数	延べ活動人数
ひつじさんのおうち	83	299
ちいさいおうち	58	58
カピバラの家	37	57
ひまわりのおうち	24	79
うさぎさん・かちどき橋・おさかなのおうち	62	359
合計	264 回	852 人

企業社員ボランティアとの協働では、合計 64 回、636 名が活動に参加した。うちハウスでの活動は、48 回、234 名。オンラインで企業社員と繋ぎ、活動紹介やプログラムを提供したオンライン・ボランティアは、11 回、延べ 300 名が参加。ハウスでの活動が難しい企業の社員の方々にも活動を紹介し、協力いただく機会を得た。また、ボランティアやスタッフが企業などに出向いて行う出張ボランティアは、5 回、延べ 102 名が参加した。

【スポット】

活動場所	延べ活動回数	延べ活動人数
ハウスでの活動	48	234
オンライン・ボランティア	11	300
出張ボランティア	5	102

③イベントを支えるボランティア活動

東京マラソン 2026 では、2 月 26 日（木）～2 月 28 日（土）東京マラソン EXPO のチャリティブース運営、及び 3 月 1 日（日）東京マラソン 2026 当日の事務局前の沿道応援や、フィニッシュ後のラウンジブースに多数のボランティアの協力をいただいた。

④自宅で作る手仕事ボランティア活動

ハウスに必要なぞうきん、クッションカバー、使い捨て布、グリーティングカードなどを自宅で作るボランティアで協力いただいた。企業では、オフィスでの活動に参加する社員だけでなく、オンラインで繋ぎ社員が自宅からでも協力できるものと社内でも広く呼びかけ、協力くださった所も複数あった。

⑤IT 関係ボランティア

各ハウスに設置されているパソコン・Wi-Fi 等のメンテナンス、寄贈のタブレットのセットアップ、HP 更新等を PC ボランティアの協力により行っているが、感染予防が必要な状況が続く中では、ハウスで活動するボランティア、企業の IT 部の社員ボランティア等が代わりに最低限の対応を行った。PC・HP ボランティアのメンバーは、10 名。加えて、2025 年度は、「オンライン・ボランティア活動」「プロボノ支援」で、「IT の仕組みを考えたい！」をテーマに、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社社員にもご支援いただいた。

⑥事務関係ボランティア

経理業務、会員管理、利用率の集計、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の編集・発送、アニュアルレポートの編集、ウェブサイトや SNS の更新、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。感染予防対策のため事務所での活動人数と時間を制限し、可能な限り在宅で活動できる工夫を行った。

⑦ハウスの定期的な物品運搬ボランティア

企業又は個人からいただいた品物（生活用品、食料品等）をボランティアの協力を得ながら定期活動やハウス訪問時に届けた。さらに、1 ヶ月に 2～3 回、車で運搬ボランティアの協力を得て、寄付された物品がすぐに利用者のもとへ届くようにハウスと事務局間において定期的に物品運搬を行っている。各ハウスでは毎月管理表で在庫をチェックすることで、各ハウスのニーズに添った物品を届けることができた。

（５）内部研修及びミーティング

①ハウスボランティアミーティング

引き続き感染対策の観点から、各ハウスともボランティアが集まっての定期的な活動は、一度に活動する人数を抑えて、活動時間帯をずらすなど工夫した。また、感染予防対策を徹底し、ボランティアミーティングや意見交換は、遠隔（電話、Line、Zoom 等）も使い工夫して行った。

②プロジェクト進捗ミーティング

オンライン形式で、毎週月曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。新たなプロジェクトの検討や、HP、会員管理について情報共有をしながらスタッフ間の連携を行った。

③ケースカンファレンス

オンライン形式で、毎週金曜日に利用者についてのケースカンファレンスを行った。

受付担当スタッフ、相談員（看護師）、ハウス担当スタッフを中心に、安全衛生、情報共有、検討事項の相談などを行った。

（６）企業研修、学生・他団体の研修受け入れ

- 1 2025 年 4 月 1 日（火） うさぎさんのおうち見学受け入れ
- 2 2025 年 4 月 9 日（水） かちどき橋のおうち見学受け入れ
- 3 2025 年 4 月 14 日（月） 三和シャッター株式会社新入社員研修

- 4 2025 年 5 月 8 日（木） 日本光電工業株式会社新入社員研修
- 5 2025 年 5 月 14 日（水） 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻
- 6 2025 年 7 月 16 日（水） 経済同友会「ソーシャルウェンズデー リーダープログラム」参加
- 7 2025 年 8 月 27 日（水） うさぎさんのおうち見学・インタビュー受け入れ（鷗友学園女子中学校 3 年生）
- 8 2025 年 10 月 8 日（水） 東京慈恵会医科大学医学部看護学科実習
- 9 2025 年 10 月 9 日（木） 東京慈恵会医科大学医学部看護学科実習（オンライン）
- 10 2025 年 10 月 9 日（木） MSD 株式会社 社員研修受け入れ
- 11 2025 年 12 月 5 日（金） 社内向けランチョンセミナー登壇（アライアンス・バーンスタイン株式会社）
- 12 2025 年 12 月 11 日（木） うさぎさんのおうち見学受け入れ（こども家庭庁）
- 13 2025 年 12 月 12 日（金） うさぎさんのおうち見学受け入れ（厚生労働省）
- 14 2026 年 2 月 4 日（水） うさぎさんのおうち 見学受け入れ
- 15 2026 年 2 月 10 日（火） ひつじさんのおうち 見学受け入れ
- 16 2026 年 2 月 13 日（金） うさぎさんのおうち 見学受け入れ
- 17 2026 年 2 月 24 日（火） ひつじさんのおうち 見学受け入れ
- 18 2026 年 2 月 26 日（木） うさぎさんのおうち 見学受け入れ（NPO 福岡ファミリーハウス）

2. 広報

（1）ファミリーハウス通信の発行

2025 年度も毎号ごとに編集会議を行い、年 4 回の発行を行った。質の高い紙面作りを目指し、昨年に引き続きプロボノの協力を得て工夫と改善を行った。会報を通じ、活動の現状とハウスのニーズを伝えるとともに、寄付・ボランティアへの活動参加に繋がるような制作に努めた。また、正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4 回合計で 6,897 部発送した。（前年発送部数：7,049 部）「通信」の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われた。また、HP への掲載も開始し、HP へ掲載した記事を見て物品寄付をくださる方の増加にも繋がった。

（2）ハウス見学受け入れ

今年度も感染予防の観点から各ハウスの見学受け入れは、慎重に設定した。利用者のいない期間に、人数、時間制限を設け、換気をしながら見学を受け入れた。

勝どきエリア（うさぎさんのおうち、かちどき橋のおうち）では最新のハウス例として、東京慈恵医科大学大学院及び医学部看護学科から、また世田谷（ひつじさんのおうち）では国立成育医療研究センターでの医療ソーシャルワーカー実習も、実習を兼ねて見学を受け入れた。また、行政や、医療従事者、他団体などの見学者を受け入れた。病院から近いハウスを必要とする患児と家族の状況やハウスのニーズを伝えることができた。

（3）ファミそ作り

料理研究家脇雅世ご夫妻のご協力により、『ファミそ〜ファミリーハウスのための味噌〜』作りが 12 年目を迎えた。オリジナルのデータ作成は、引き続きホスピタリティデザインを手がけるプロボノの寺澤知也氏にご協力いただいた。以前は、例年、熟成した味噌の容器詰めはボランティアを募り参加していたが、今年も感染予防から脇先生が引き受けてくださり、毎年楽しみにしている方々へお届けすることが出来た。

(4) ホームページ

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日の期間のページビューは 70,100 件であった（なお、2024 年度のページビューは 67,778 件）。ボランティア活動などの情報を都度情報発信した。

(5) 学会・講演等

- ①2025 年 10 月 4 日（土） 第 25 回中部小児がんトータルケア研究会 発表
- ②2025 年 11 月 8 日（土） 上智大学 多文化共生社会研究所・生命倫理研究所 共催シンポジウム「子どもの終末期医療－日本における現状と課題」指定討論登壇
- ③2025 年 11 月 10 日（月） 勉強会『社員のエンゲージメントが高まる「企業のためのボランティアのはじめの歩」』登壇（企画：Pledge1% 日本窓口 特定非営利活動法人 NPO サポートセンター）
- ④2025 年 11 月 19 日（水）～21 日（金） 第 67 回 日本小児血液・がん学会学術集会／第 23 回日本小児がん看護学会学術集会／第 30 回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウム（JHHH ネットワーク 団体紹介コーナー出展）
- ② 2026 年 2 月 14 日（土）小児がん交流フェスタ 2026 にて団体紹介

(6) イベント

- ① チャリティ・コンサート
 - ・2025 年 7 月 7 日（月）、チャリティ・イベント“Eriko Haikawa and Friends at Tanabata Concert 2025”が開催された。30 名近くの来場者の方から温かいご支援をいただいた。
 - ・2025 年 11 月 15 日（土）、なかの ZERO ホールで開催された「淡野ゴスペルクワイア チャリティ・コンサート 2025」に、チャリティ寄付先団体としてブース出展を行った。
 - ・2025 年 10 月 25 日（土）、NPO グローヴィル主催で「Jazz Night in ひろしま チャリティ・ジャズ・コンサート Swing for Hope」が開催された。昨年に続き、ひろしま美術館内で開催されたコンサートで多数の聴衆がギター演奏を楽しみ、コンサートチケットの売上は全額ファミリーハウスに寄付された。
- ②「タオルくまをつくろう」ワークショップ

2024 年 12 月に続き、「うさぎさんのおうち」や「かちどき橋のおうち」がある中央区勝どきで 2025 年 12 月 7 日（日）にワークショップを 2 回開催した。『病気の子どもと家族のためのクリスマスプレゼント“タオルでくまをつくろう！”』と題して活動紹介、タオルくま作り、バザーを実施し、22 名が参加した。地域住民にファミリーハウスを知っていただく機会となった。
- ③東京マラソン 2026 チャリティ

2026 年 3 月 1 日（日）に開催された東京マラソン 2026 では、ファミリーハウスを支援するチャリティランナー 131 名が出走した。2 月 26 日（木）～2 月 28 日（土）東京ビッグサイトでの東京マラソン EXPO2026 に寄付先団体の一つとしてブース出展をし、来訪されたチャリティランナーの方にファミリーハウスオリジナルビブス等をお渡しして、感謝の意を伝えた。大会当日は事務局前の靖国通りにおいて企業ボランティア 10 名とともに沿道応援を行い、フィニッシュ後東京国際フォーラムのチャリティラウンジでチャリティランナーとの交流をし、タオルくまをお渡した。

③ チャリティワーク

武田薬品工業株式会社の従業員が、自身の意志で希望する患者団体に支援をすることができる「チャリティワーク」の寄付先団体の1つとして、ファミリーハウスが選ばれた。2025年12月5日（金）～12月19日（金）の実施期間の間、歩数50歩につき1円のマッチング寄付で、62名の従業員が参加し、参加寄付額とマッチング寄付額がファミリーハウスに寄付された。

（7）SNS（X（旧 Twitter）、ピアッツァアプリ）

当会で初めてのSNSの活用としてX（旧 Twitter）による情報発信を2021年10月15日に開始した。

2026年3月31日現在のフォロワー数は213である。又、2023年10月より地域コミュニティアプリ「ピアッツァ」（中央区エリア版）での情報発信も行っている。さらに、2025年8月よりインスタグラムでの発信を開始している。

（8）中川李枝子さん・山脇百合子さんお別れの会出席

2022年9月29日山脇百合子さんが、そして2024年10月14日中川李枝子さんが逝去された。ファミリーハウスの活動が始まって間もなく毎年の中川先生より「ぐりとぐらのカレンダー」を寄贈。2006年には今のファミリーハウスの象徴的な絵となったうさぎなどのイラストを「私たちにもできるボランティアはある？」という申し出により、山脇先生より描きおろしで提供された。そのおふたりのお別れの会が2025年4月16日如水会館で開催され参加した。長きに渡るファミリーハウスへのお気持ちとご協力に心より感謝する。

3. 援助及び支援活動

（1）相談事業

① 受付・電話相談

電話の総数は、2,980件。電話相談問合せは、267件。

② 利用者面談

利用者面談件数は、1,689件。看護師、ソーシャルワーカーなどの専門職による訪問、電話での面談を行った。

③ 病院との連携

利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。医師、病棟看護師、ソーシャルワーカーなどの医療従事者とともに利用者の安全な滞在を確保した。

（2）援助支援活動

① 公益財団法人公益推進協会（新井孝之基金）

公益財団法人公益推進協会（新井孝之基金）の助成金により、滞在施設の衛生環境向上のためのリース布団提供事業を実施し、各ハウスで衛生的な寝具環境を維持することができた。（助成期間：2025年10月1日～2026年9月30日）

4. その他

（1）全国ネットワークの取り組み

①第 26 回 JHHH ネットワーク会議の開催

第 26 回 JHHH ネットワーク会議は 11 月 22, 23 日に福岡のパピヨン 24 ガスホールにて福岡ファミリーハウスと共催で行われ、会場・オンライン合わせて延べ 84 名が参加。1 日目はシンポジウム、2 日目に分科会を開催した。シンポジウムでは、福岡での 30 年の活動を振り返り、ハウスがとり壊される 3 年後、新しいハウスの開設の必要性を訴えた。分科会ではそれぞれの団体の現状と問題点の話し合いを行った。

(2) 新ハウス開設プロジェクト (理想の家プロジェクト)

2025 年 3 月末、東京都と事業者の基本協定が締結され、理想の家プロジェクトが一步前進した。

(3) 公益財団法人洲崎福祉財団の助成選考委員

公益財団法人洲崎福祉財団の一般助成、継続助成選考委員として、2025 年 4 月 16 日 (水)・10 月 22 日 (水) に理事長江口八千代が選考委員会に出席した。

(4) 「小児がん拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ」に構成員として参加

厚生労働省健康局長が構成員の参集を求めて開催する「小児がん拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ」の構成員に植田洋子事務局長が選任され、2026 年 3 月 26 日に新メンバーでの初めての会議が開催された。本ワーキンググループで得られた成果は、「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」に報告される。任期は 2 年。

以 上